

相模女子大学「オープンキャンパス実施における新型コロナウイルス 感染拡大防止ガイドライン」

感染防止対策

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、教職員および学生スタッフは、検温、フェイスシールドまたはマスク（熱中症対策が必要な場合を除く）の着用、手洗いなど手指衛生等「新しい生活様式」に基づく行動を徹底し、当日発熱などの症状がある場合は、無理な出勤は控える。
- 常にソーシャルディスタンスを意識し、密にならないように配慮する。
- 各施設の入り口や使用教室にアルコール消毒液（ハンドジェル等）を設置する。
- フェイスシールドまたはマスクを着用せずに大声を発したり、食事を伴う企画は実施しない。
- 参加者にはマスクの着用（熱中症対策が必要な場合を除く）と、発熱・咳の症状や体調に不安がある場合は、無理をせず参加をお控えいただくよう、広報開始から予約後の連絡の都度明記することで徹底する。
- 同伴者は1名（予約時に登録）とする。

受付での対応

- 受付前に非接触型体温計で参加者の体温を確認する。37.5℃以上の発熱が確認され、時間をおいて再度検温しても下がらない場合は参加をご遠慮いただく。
- マスクを持参していない参加者にはマスクを配付する。
- 接触感染防止のため、アルコール消毒液（ハンドジェル等）の利用を促す。
- 飛沫感染防止のため、受付スタッフ同士、スタッフと参加者あるいは待機者の列においても間隔を十分に確保する。
- 資料やグッズの受け渡しを行うスタッフは手袋を着用する。

キャンパスツアーでの対応

- スタッフはマスクを着用し、ハンディマイクまたは拡声器を使用する。
- 屋外でソーシャルディスタンスが保てる状況の場合は、マスクを適宜外しても可能とし、参加者の体調管理にも配慮する。

各会場・教室での対応

- 各教室の収容率は7割程度とする。
- 接触感染防止のため、入室前にアルコール消毒液（ハンドジェル等）の利用を促す。
- 換気扇は常にONにし、各教室の出入り口や窓は常に開放しておく。
- 感染防止のため、参加者が密にならないようにスタッフによる誘導、入場者数のコントロールを徹底する。
- 飛沫感染防止のため、参加者が多数見込まれる企画の教室では教卓前の机は利用せず、その他の席もソーシャルディスタンスを心掛けた利用を促す。

個別相談の対応

- 接触感染防止のため、アルコール消毒液（ハンドジェル等）の利用を促す。
- マスク、手袋を着用する。
- 面談時間は15分以内とする。
- 感染防止のため、相談ブースは1m以上の間隔をあけて配置し、それぞれの机の上にアクリルボードを設置する。
- 相談終了後は、その都度アルコールや除菌シートによる机や椅子の清拭消毒を行う。
- 個別相談の待機者が密にならないように、スタッフによる誘導、待機人数のコントロールを徹底する。

その他

- 参加者が参加したイベントを把握できるように記録をとる。

以上